

まなびの里づくり協議会小委員会(第1回) 内容まとめ

日 時 令和5年3月 27 日(月) 10:00～

場 所 氷上住民センター 第2小会議室

参 加 者 山内副委員長、荒木委員、松本委員、蔦木委員、小畠課長、見田係長、畑田生涯学習推進員、
足立大希主査

協議内容 : 今後の進め方の確認、丹波市の目指すカタチについての意見

前回の振り返り

「生涯学習を実践に生かすためのキーマンとなる人のイメージについて」

- 親世代の参画や若者の活躍が重要。
- 大人のまなびのサポートのできる人
- コミュニケーション能力、ファシリテーション能力がある人
- 組織の役員 等

委員・参加者の意見

- ・【委 員】キーマンと言われる人はやりたい人、好きな人だけがやっている意識がある。傍観者が多い。
→キーマンになる人を支える人が必要。
- ・【委 員】興味のあるテーマには参画する。
- ・【委 員】高齢者中心の社会教育の内容が多いように思う。
- ・【事務局】地域とともにある学校や学校を核とした地域づくりの考えは重要ではないか。
- ・【委 員】「学校」は無数にある地域づくりの1つのメニュー
すべてが学校を核に書き換えることではない。
- ・【事務局】生涯学習はわかりにくい。地域学校協働活動はわかりやすいイメージのひとつ。
わかりやすい生涯学習への理解を進めることが重要ではないか。
- ・【委 員】市の関係部署が互いに歩み寄るのが重要。
生涯学習は個人のものと捉えられがちだが、市民、行政も意識することが重要。
生涯学習の概念が広がらないと、地域づくりとイメージが遠い。
- ・【事務局】社会教育の視点をもって地域づくりができているか。
地域によっても捉え方が違うこともある。
- ・【委 員】まなびをイメージできる具体的な事業も重要。
生涯学習を周りにもイメージしてもらえる運動が理解につながるのでは。
- ・【委 員】市長が生涯学習の重要性を発信し続けることも重要。
- ・【事務局】行政が施策として出すためには、公益性は重要。なんでもはできない。
具体性を持って取り組んでいきたい。
- ・【委 員】広がりを見せていくために、戸主だけではなく、地域の多様な人たちが関わるのが大切。
移住者、女性、子どもなど、多様性を認め合う事を理解できる人とまずは進めていく。